様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年６月５日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2010～2012
課題番号：22330100
研究課題名（和文）独立後インドの消費変動：農村社会経済構造の長期変動との関連に注目して
研究課題名（英文）Changes in Consumption Patterns and Long-Term Transformation in Socio-Economic Structure of Rural Societies in Independent India
研究代表者
柳澤　悠（Yanagisawa Haruka）
東京大学・東洋文化研究所・名誉教授
研究者番号：20046121

研究成果の概要（和文）：タミルナード州、パンジャーブ州の村落調査および産業調査、現地語の新聞・雑誌や自叙伝等の分析、及び全国標本調査の分析を行い、耐久消費財は農村貧困階層にも相当程度普及し、教育や家族関係などに構造的な変動が起っていることを明らかにした。さらに、農村下層階層の安価な工業製品への消費拡大が、零細企業による工業生産の拡大を支えていることや、地域の消費変動が工業発展の重要な基礎となっていることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：We conducted village- and industrial surveys in Tamilnadu and Punjab States, an analysis of journals and publications in local languages as well as National Sample Survey data and found that rural areas witnessed the penetration of consumer-durable goods even into the poor classes and also structural changes in educational levels and family relationship among villagers. An expansion in demand by the rural poor for cheap industrial products has stimulated the expansion of the informal industrial sector, and the growth of demands in regions has formed the background against which the regional industries have developed.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
2011 年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2012 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
総　計	9,200,000	2,760,000	11,960,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：経済学、経済史
キーワード：経済史、地域研究、消費、農村社会、中間層、インド、経済発展

１．研究開始当初の背景

(1)1980 年代からのインド経済の急速な成長と都市経済の発展に刺激されて、インドの消費の内容・種類・嗜好など消費パターンの変動についての研究は少なくないが、多くは、1980 年代以降の都市中間層を対象とした文化人類学的社会学的研究である。1980 年以前の時期については、消費の質的変化、とくに経済変動との関連を視角にいれた研究は、非常に少ない状態であった。

(2)近年の消費の変動は、1980 年以前から進んできた農村社会の社会経済構造の長期変動と密接に関連している。「緑の革命」導入以降に顕著となる農業・農村構造の変容が 80 年代以降の消費変動の背景をなしてい

ること、消費変動も80年以前から農村に内在的する要因に基づき徐々に進行していたという推定にたって、関連のメカニズムを解明する必要があった。

２．研究の目的

本研究は、1980年代から顕著となる現代インドの消費の拡大と多様化を、1980年以前の長期にわたる農村・農業社会の階層変動との関連で分析する。その際、教育・宗教など生活スタイルや生活文化の全体的変容を視野にいれつつ、消費行動を経済的な要因のみならず下層民の自立化など社会的要因や社会的意識との関連でとらえ、消費の増大・多様化が地域の職や産業に与える影響をも視野にいれる。農村社会経済構造の長期の歴史的変容こそが現代インド経済成長の原動力の最重要要因の一つであることを、そのメカニズムの解明を伴って説得的に実証することを目指す。

３．研究の方法

次の方法を有機的に結合して研究を進めた。

(1)申請者達が1980年代から調査を行ってデータを蓄積してきた、南インド・タミルナードゥ州の村落などのインドの村落調査とそのデータ分析を行い、村落社会の長期的な経済的社会的変動と消費パターンとの関連を分析する。

(2)タミル語の新聞・雑誌（Kumudam 誌・Ananda Vikatan誌)の商品広告の分析により、長期の消費変動の動向を明らかにする。また、ケーララ地方のマラヤーラム語の雑誌と小説・自叙伝などの分析から、1920年代からの消費の長期変動を推定する。

(3)インドの全国標本調査(NSS)の個票データほかの統計の分析により、食糧消費等の変化を解明する。

(4)産業調査や産業データの収集を行い、消費と産業との関連を検討する。

４．研究成果

研究期間中に、タミルナード州村落調査、パンジャーブ州村落調査および産業調査、それらデータの分析、現地語の新聞・雑誌や自叙伝等の分析、全国標本調査の分析を行い、以下の知見を得た。

(1)耐久消費財の農村地域への浸透はすでに指摘されてきたが、テレビ、携帯電話、扇風機などの耐久消費財は貧困な階層にも相当程度普及し、かなり高価なモーターバイクさえも下層階層にかなり所有されていることなど、耐久消費財消費と階層との関係が明らかとなった。

(2)耐久消費財の普及とともに、教育など、生活スタイルにも大きな変化が生じており、家族関係などにも構造的な変動が起っていることが実証された。下層階層の社会的上昇への動向とも関係して、彼らの巡礼への参加や結婚式場での挙式など下層階層の生活スタイルの変化も大きい。

(3)予想されたように学歴は全体に上昇しているが、都市での就職に大きな意味を持つ12年目の修学を境に、社会階層間で学歴の格差が拡大している可能性が示唆された。この点は、非農業職への進出の階層間格差との関係で、重要な論点である。

(4)食料消費パターンについては、明確な地域性が存在する。沿岸部や山岳地帯における魚食の重要性など、これまで利用されてきた州レベルのデータでは確認できなかった事実を定量的に確認することができた。

(5)インドの経済発展に関して、地域とくに農村地域の消費の変動が工業発展の重要な基礎となっていることが明らかとなった。例えば、「緑の革命」を経た農村地域とその周辺都市における家屋の改築や建設ブーム

によって鋼材への需要が拡大し、その需要に対して安価・低質な鉄鋼を供給する地域密着型の中小の鉄鋼業が発展している。繊維産業においても、地域需要の拡大に対応して発展した中小企業が積極的に海外進出を図っている。

(6) 1990 年以降の非綿糸繊維品や既製服・メリヤス製品などの需要の増大は、農村市場で顕著であること、急速に発展した小規模織布工場パワールームは農村市場を基盤としたことなどが明らかとなり、農村市場とくに農村の下層階層の安価な工業製品への消費拡大が、インドの小規模・零細規模企業による工業生産の拡大を支えている。

(7) ミドルクラスと総称される階層内部に少なからぬ亀裂があること、消費文化の謳歌と同時にジェンダー関係の変容への不安が存在することを確認した。一方、下層と位置づけられる女性の一部が示す消費行動に、ある種の自己主張を読み取ることが可能であることも確認されるなど、ジェンダー研究上も重要な知見をえることができた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 14 件）

① 井上貴子,“Comparative Aspects of Christian Music in India, China, and Russia: Missionaries and Natives as Intermediary Actors in the Contact Zone”, *Comparative Studies on Regional Powers* (Slavic Research Center, Hokkaido University),査読なし,No.11, 2012, 43-64.

② 井上貴子, “The Reception of Western Music in South India around 1800”, *Comparative Studies on Regional Powers,* 査読なし、No.13, 2012, 69-96.

③柳澤　悠、「インドの共同資源をめぐる問題への視角－権利、管理、階層と歴史的変化－」、『歴史学研究』、査読有り、893 号、2012、37-44。

④杉本良男、「四海同胞から民族主義へ－アナガーリカ・ダルマパーラの流転の生涯」、『国立民族学博物館研究報告』、査読有り、2012、285－351。

⑤井上貴子、「インド古典芸能の美学とヨーロッパの美学―カラー、ラサ、バクティ、そしてアートの位置づけをめぐって」、『東洋研究』（大東文化大学東洋研究所）、査読なし、第 183 号、2012、21-49。

⑥ Haruka Yanagisawa 、“Two Types of Economic Growth in Asia: Chinese Development along the East Asian Path and Indian Development with a Stratified Social Structure”、『千葉大学・経済研究』、査読なし、第 25 巻第 4 号、2011、1-25。

⑦Haruka Yanagisawa, “Village Common Land, Manure, Fodder and Intensive Agricultural Practices in Tamil Nadu from the Mid-Nineteenth Century”, *Review of Agrarian Studies,* 査読あり,Vol. 1, No. 1, 2011, 23-42.

⑧井上貴子、「インド―資金調達としてのフィランスロピーと NGO の活動」、『大原社会問題研究所雑誌』、査読なし、No.628、2011、1-9。

⑨井上貴子、サバルタンを表象すること―インドについての映画に描かれた女性と子ども―」、『アジア太平洋研究』、査読なし、No.35、2010、91-102。

⑩杉本大三、「穀物自給率の国際比較」、『名城論叢』、査読なし、第 11 巻第 4 号、2011、43-55。

⑪井上貴子、「近代インドにおける学問と音楽芸術―オリエンタリズム論」、『岩波講座東アジア近現代通史』、査読なし、第 1 巻、2010、273-293。

⑫栗屋利江、「インド近代史研究と「植民地責任」論」、『歴史学研究』、査読なし、865 号、2010、22-26。

〔学会発表〕（計 12 件）

①井上貴子、「音楽メディアとしてのキリスト教―インドを事例として―」、政治経済学・経済史学会秋季学術大会パネルディスカッション『音楽が国境を越えるとき―「近代」における異文化接触―』、2012 年 11 月 10 日、慶応大学（東京）。

②栗屋利江、「現代インドにおける格差と社会運動―ダリト・フェミニズムを焦点として」、現代インド拠点プロジェクト全国集会、2012 年 11 月 23 日、龍谷大学（京都）。

③柳澤　悠、「小規模・零細工業の発展と農村における『疑似ブランド品』需要の展開：一試論」日本南アジア学会・第 25 回全国大会、2012 年 10 月 7 日、東京外国語大学（東京）。

④Takako Inoue, “Christian Music in India: As Intermediary Actors in the Contact Zone”, “Comparative Aspects on Culture

and Religion: India, Russia, China", 2011 年 9 月 15 日, Centre for the Study of Culture and Society, Bangalore, India.

⑤柳澤　悠、「農村社会の変容と経済発展—サービス部門の拡大を中心に—」、人間文化研究機構『現代インド地域研究』国内全体集会：「インドにおける経済発展—都市・農村の変動—」、2011 年 11 月 27 日、広島大学（広島）。

⑥Takako Inoue, "The Reception of Western Music in South India around 1800", Summer International Symposium: Orient on Orient: Images of Asia in Eurasian Countries, 2010 年 7 月 7 日・8 日, 北海道大学スラブ研究センター(札幌)。

⑦ Takako Inoue, "Interactions between Missionaries and Native Christians on Music in South India: Constructing Hindu-Christian Identity", International Conference, Religion and Media Transcultural Perspective, 2010 年 11 月 2 日・3 日, Friedrich–Alexander University, Erlangen-Nurnberg, Germany.

⑧井上貴子、「グローバル化時代のインドの音楽産業とメディア」、NIHU プログラム現代インド地域研究　国内全体集会「社会変容とメディア:グローバル・インドの諸相」、2010 年 12 月 4 日・5 日、東京外国語大学（東京）。

⑨Takako Inoue, "What Is World Music? The Japanese Perception and Its Practice", International Conference on Asian Culture Industries: A Comparative Study of India, Japan and South Korea, 2010 年 12 月 21 日・22 日, Centre for the Study of Culture and Society, Bangalore, India.

⑩Seiko Sugimoto, "Toward the Extrication from Heartache: A Case Study of the Reconstruction of a 'Village Temple' by Tsunami Victims in North Chennai", 2010 AAG (Association of American Geographers) Annual Meeting, 2010 年 4 月 18 日, Washington DC., USA.

〔図書〕（計 13 件）

①杉本良男（共編）、明石書店、『スリランカを知るための 58 章』、2013、324。

②柳澤　悠（共編著）、勁草書房、『持続可能は福祉社会へ第 4 巻　アジア・中東—共同体・環境・現代の貧困』、2012、292。

③杉本良男（共編）、朝倉書店、『朝倉世界地理講座－大地と人間の物語 4 南アジア』、2012、470。

④井上貴子編著、明石書店、『森林破壊の歴史』、2011、212。

⑤杉本大三、他、ミネルヴァ書房、『現代インド・南アジア経済論』、2011、127-148。

⑥粟屋利江(編著)、明石書店、『人の移動と文化の交差』ジェンダー史叢書 7、2011、316。

⑦粟屋利江、他、岩波書店、『「韓国併合」100 年を問う』、2011、263-274。

⑧ Seiko Sugimoto, 他 、"Sociocultural Frame, Religious Networks, Miracles: Experiences from Tsunami Disaster Management in South India", The University Press of Kentucky, *The Indian Ocean Tsunami, The Global Response to a Natural Disaster,* 2010, pp. 213-235.

⑨井上貴子（編著）、勁草書房、『アジアのポピュラー音楽—グローバルとローカルの相克—』、2010、220。

⑩粟屋利江、他、佼成出版社、『仏教の形成と展開』2010、333－381。

⑪粟屋利江、他、明石書店、『思想と文化』ジェンダー史叢書３、2010、188-190。

６．研究組織

(1)研究代表者

柳澤　悠（YANAGISAWA　HARUKA）
東京大学・東洋文化研究所・名誉教授
研究者番号：20046121

(2)研究分担者

井上　貴子（INOUE　TAKAKO）
大東文化大学・国際関係学部・教授
研究者番号：10307142

杉本　良男（SUGIMOTO　YOSHIO）
国立民族学博物館・民族社会研究部・教授
研究者番号：60148294

杉本　星子（SUGIMOTO　SEIKO）
京都文教大学・人間学部・教授
研究者番号：70298743

杉本　大三（SUGIMOTO　DAIZO）
名城大学・経済学部・准教授
研究者番号：90434620

(3)連携研究者

粟屋　利江（AWAYA　TOSHIE）
東京外国語大学・総合国際学研究院・教授
研究者番号：00201905